

真渡瓜(まわたうり)

1, 解説

本種は、会津地方で栽培されてきたマクワウリの一品種である。

福島県農業誌によると、大正の初期頃、会津若松市北会津真渡地区の平山常松氏によって導入され、その後同地区の生産者によって選抜されたものであり、金マクワと銀マクワの交雑種とされる。

果形は俵型で縦に10条の筋があり、成熟すると果皮が銀色の光沢を帯び、強いメロン臭を放つようになる。

食味はマクワウリの中では良いとされるが、日持ちが悪く軟化しやすい

戦前から昭和30年代までは生産量が多かったが、プリンスメロン登場以降は栽培が激減し、今日ではほとんど栽培されていない。

2, 写真



生育初期の草姿



生育初期の草姿



現地での栽培状況



現地での栽培状況



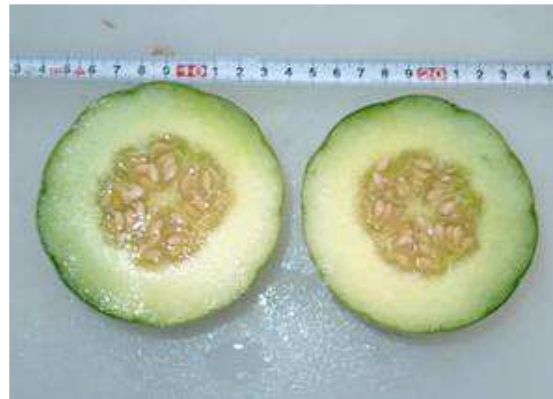
果実（成熟直前）



市場での荷姿（北会津産）



果実断面



果実断面

3, 遺伝資源の栽培および保存状況

- ・会津若松市を中心に主に地元市場向けに出荷用、自家用として栽培されている。
- ・種子は菊地種苗株式会社で取り扱っているが、通常の店頭販売は行っていない。